

特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」リハーサル大会
兼 第17回鹿児島県障害者スポーツ大会
水泳競技実施要領

1 競技規則

令和5年度に適用の全国障害者スポーツ大会競技規則（公益財団法人日本パラスポーツ協会制定）によるもののほか、この要領の定めるところによる。

2 使用プールについて

- (1) プールの水深は 140cm とし、入退水専用レーンには両隅に低床フローアを設置する。
- (2) 水温は 28℃～30℃とする。

3 招集

- (1) 招集は、競技開始予定時刻の 30 分前から 15 分前までに終了する。
- (2) 招集時刻に遅れた選手は、棄権とみなす。
- (3) 競技時刻は、進行の都合により変更する場合があるため、放送・掲示板等に十分注意すること。
- (4) 選手は、招集時に主催者が用意した ID カードを必ず携帯すること。
- (5) 前レースの表彰終了時間から次レースの招集終了時間までが 10 分以内の選手については、当該選手の代理の者がその旨を招集所に申し出ることにより、代行することができる。
- (6) 障害区分 23 の者が装着する光を通さないゴーグルは、招集所において競技役員が、光の漏れがないかを確認する。確認後はそのゴーグルを競技終了まで装着すること。

4 リレーオーダーの提出

リレーオーダー用紙は、その種目が行われる 60 分前までにリゾリューションデスクに提出すること。

5 選手紹介

競技前の選手紹介のときは、選手は椅子から立って紹介を受けることとする。ただし、車椅子使用者及び立つことが困難な選手は、着席した状態で片方の手を挙げる等により紹介を受けることができる。

6 介助者等

- (1) 障害によりやむを得ず介助者による補助や指示が必要な選手については、介助者又は同伴者の入場を許可することができる。
- (2) 申請対象となる障害区分
 - ア 競技規則上可能な介助
 - (ア) スタート介助（入退水介助含む。）
身体的理由により壁をつかむことができず、かつ、身体の一部を壁につけることができない者
障害区分 11, 13, 17, 19, 22
 - (イ) タッピング
 - a 障害区分 23
※必ず介助が必要（50m 種目ではスタート・ターンのサイド各 1 名、計 2 名）
 - b 障害区分 24
 - イ 競技規則以外で可能な介助
 - (ア) 入退水介助
障害区分 14, 15, 16

ウ 競技規則以外で可能な同伴

(ア) 情緒不安定

障害区分 26 及び同等の障害が重複する者（他選手に迷惑をかける場合に限る。）

(イ) 種目の指示

障害区分 26 及び同等の障害が重複する者(泳ぐ種目を理解できない場合に限る。)

(3) 申請

ア 介助及び同伴を必要とする選手は、参加申込時にその理由を添えて主催者に申請しなければならない。

イ (2)申請対象となる障害区分以外で同等の障害を有し介助又は同伴を必要とする場合は、参加申込時にその理由を添えた申請が必要である。

ウ 参加申込以後、介助者を要する事情が発生した場合は、出場競技開始予定時刻の 60 分前までに「介助許可証（ビブス）交付申請書」を選手総合受付に申請し、審判長の許可を得なければならない。ただし、初参加のため「不安がっている」、「緊張している」等、障害の種類や程度によらない理由での申請は認めない。

(4) 禁止事項

ア 介助者及び同伴者は、競技エリア及び招集所においてのコーチング（声かけを含む。）をしてはならない。

(ア) 他の選手の迷惑となる行為は招集所の外で対応すること。

(イ) 本項(2)ウ(イ)「種目の指示」の場合は、同伴者による距離及び種目の確認のための声かけは認める。

イ 介助者及び同伴者は、競技エリア及び招集所において許可されたこと以外をしてはならない。例えば、カメラ、ストップウォッチ、携帯電話等の使用は認めない。

7 誘導

(1) 競技エリアでの誘導は、競技役員及び競技補助員が行う。

なお、許可を受けた介助者がいる場合は、競技役員の指示に従う。

(2) 選手は、競技終了後、競技役員及び競技補助員の誘導により選手解散所にて解散する。

なお、入賞者については、表彰式終了後、選手解散所にて選手出迎えの者に引き継ぐものとする。全ての出場種目が終了した選手は、選手解散所で ID カードを返却する。

8 出発合図

出発合図は、閃光・電子音装置を使用する。障害区分 25 のスタートにおいては、閃光・電子音装置に加え、出発合図員がスタートの合図を行う。

9 計時

(1) 計時は、自動審判計時装置及び半自動審判計時装置を使用する。

(2) 有効面外のタッチ又はライトタッチで自動審判計時装置が作動しない場合は半自動審判計時装置により計測した記録とする。

10 浮具の使用

障害区分 22 の浮具が必要な選手は、参加申込時に申し出があり、かつ、審判長が認めた場合に限り、両腕、首及び腰に浮具を使用することができる。ただし、浮具は選手が用意しなければならない。

11 貸出用車椅子

競技エリア内への入場の際に車椅子が必要な選手は、原則として主催者の用意した車椅子を使用するものとする。この場合において、主催者に対して参加申込時に申請すること。

なお、自身の車椅子を使用する場合は車輪の汚れを取り除くこと。

12 種目順

別表の種目順により競技を行うので、参加申込時に参考にすること。ただし、編成上、やむを得ず種目順を変更することがある。

13 開始式・表彰式

(1) 開始式

ア 開始式は、競技開始前にプールサイドで行う。

イ 開始式に参加する選手は、開始式開始 10 分前までにプールサイドの指定された場所に集合すること。

ウ 開始式に参加する選手は、原則として衣服を身に着けること。

(2) 表彰式

ア 表彰式は、3 レース終了ごとに行う。

イ 表彰式に参加する選手は、原則として衣服を身に着けること。

14 撮影

(1) 介助者又は同伴者による競技エリアでの撮影は禁止する。

(2) フラッシュ撮影は禁止する。

15 更衣・服装

(1) FINA の公認した水着を着用すると。ただし、身体的理由により FINA の公認した水着の着用が不可能な場合、選手受付時に「FINA 規定外の水着使用申請書」をリゾリューションデスクへ提出し、審判長の許可を得ること。

(2) 更衣は、更衣室を利用すること。

異性の介助を必要とする者は、参加申込時に申請のうえ、専用の更衣室を使用すること。

(3) 更衣室及び競技エリア以外では、水着及び裸足の状態で歩きまわらないこと。

(4) 障害区分 23 の者は、競技中に光を通さないゴーグルを装着し、競技終了まで外してはならない。ゴーグルを外すことができるのは、審判又は競技役員が認めた時だけであり、いかなる理由があっても意図的に外してはならない。飛び込みのときにゴーグルが外れた場合や、レース中にゴーグルが壊れた場合は、その限りでない。

15 ウォームアップ

ウォームアップについては、主催者において別途定める。

16 その他

(1) 競技エリアへは、競技者の他、競技役員や大会役員等の許可を受けた関係者以外は立ち入ることができない。

(2) 貴重品については、各自責任をもって管理すること。

(3) 土足厳禁の区域制限を守ること。

(4) 競技エリアでは水分補給のみ認める。

(5) 選手の控所は、指定された場所を利用すること。

(6) 荒天時他不測の事態が生じた場合の取扱いは、主催者において別途決定する。

(7) 参加者は、主催者が定めた新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドラインを遵守すること。

別表 種目順

1	2 5 m 自由形	6	5 0 m 平泳ぎ
2	2 5 m 平泳ぎ	7	5 0 m 背泳ぎ
3	2 5 m 背泳ぎ	8	5 0 m バタフライ
4	2 5 m バタフライ	9	4 × 5 0 m リレー
5	5 0 m 自由形	10	4 × 5 0 m メドレーリレー